○発表者、所属先
渡邉卓也、京都大学医学部附属病院

○タイトル
研究者への「援助」としての研究倫理支援―「審査する倫理」から「支える倫理」への転換を考える

○発表概要（500 字程度）
対人援助に係る研究をはじめ、人を対象とする研究において、倫理審査は研究参加者の権利・尊厳・安全を守るための重要な仕組みである。しかしながら、非医学系の人対象研究について、研究分野に共通する審査基準は十分に整備されておらず、個々の倫理委員会の判断や運用にも大きな違いがみられる。こうした状況において、研究者が倫理的課題に直面した際、それを誰に、どの段階で相談できるのであろうか。

本発表では、倫理審査を研究計画の倫理的適否を判断する制度としてだけでなく、研究者自身の倫理的判断を支える仕組みとして捉え直すことを試みる。現在進めている全国調査では、非医学系の人対象研究に適用される倫理審査制度の公表状況を確認するとともに、個別研究への専門的な研究倫理に係る助言、とりわけ審査申請前から利用できる相談機能に着目する。

本発表では、この調査の問題設定と設計を紹介した上で、研究者の自律的な倫理的判断を支える対話型・伴走型支援の可能性を検討する。研究参加者の保護と研究者への支援をいかに両立させるか、また、研究倫理を審査の場面に限定せず、研究の構想段階から支えるためにどのような組織的基盤が必要かについて、参加者との対話を通じて考えたい。